

すこやかな妊娠と出産をサポートする可視総合光線療法

一般財団法人光線研究所

研究員 柿沼 規之

所長 医学博士 黒田 一明

妊娠・出産は女性にとって、とても大変なことです。出産年齢の高年齢化が進む現代社会では、より大変だと実感している方が多いと思います。身体の諸機能が正常でなければ妊娠、出産を乗り越えることは容易ではありません。可視総合光線療法は、身体にとって心地良い光と熱エネルギーを補給して、全身の血行状態を良好にし、自律神経や内分泌のバランスを整えます。結果、妊娠しやすい身体づくり、安定した妊娠継続と出産をサポートし、母子ともに健康な状態を維持するのに大変有効な治療法となります。

今回は妊娠、出産の症例報告とビタミンDの関連文献を紹介します。

■晩婚化と晩産化

わが国の合計特殊出生率（15～49歳までの女性1人が生涯に生む子どもの数）は2020年に1.34人で5年連続低下し、昨今の新型コロナ禍の影響で今後さらに低下の可能性が考えられます。女性の平均初婚年齢は1980年に25.2歳でしたが2009年には29.6歳。そして出産時平均年齢も2003年に第2子が30.7歳でしたが2005年には第1子が30.7歳と12年間で1人分の差が生じており、晩婚化と晩産化が同時に進んでいます。

■プレコンセプションケア

近年、婚活前から男女共に健康の維持・改善をしておく「プレコンセプションケア」という新しい概念が出てきました。コンセプション（Conception）は受胎することをいいます。プレコンセプションケアは、女性やパートナーが将来の妊娠を考えながら健康になること、元気な赤ちゃんを受胎するチャンスを増やすこと、さらに将来の家族がより健康な生活を送れることを目指すことです。妊娠可能年齢のすべての女性にとり大切なケアです。可視総合光線療法は、プレコンセプションケアを支援できる有効な治療法のひとつになると考えます。

■誰もが目指したい『安産』

妊婦さんが、安産を願う気持ちは自然なものです。実は「安産」という言葉は医学用語ではありません。一般的には短時間で痛くない出産を想像しますが、経過として正常から外れたプロセスでも妊婦さん自身が良いお産だったと感じたら、それは安産と捉えていいようです。

日本女性を対象にした冷え症と前期破水の因果関係を調査した研究では、冷え性の方が前期破水を起こした人数は、冷え症でない人に比べ 1.69 倍高く前期破水と冷え症に因果関係があることから、安産だったと考える妊婦さんの特徴のひとつに「自覚的に冷え症ではない」ことが挙げられます。可視総合光線療法で日頃より身体を温める生活習慣を心がけることは安産への近道といえます。

※前期破水：分娩が始まり子宮口が開ききったときに起こるのが適時破水ですが、妊娠中に子宮内の感染や子宮内圧の上昇により引き起こされる破水が前期破水です。

■ビタミンD充足群と未充足群では出生率・着床率・妊娠率・流産率に差がみられ生殖補助医療の治療結果に関連（英国の研究 2019 年）

生殖補助医療の体外受精を受けた女性 500 名の血中ビタミンD濃度を調査し、血中ビタミンD濃度 20ng/ml 未満を欠乏群、21~29ng/ml を不足群、30ng/ml 以上を充足群と3群に分け臨床成績を比較した。対象者の割合は、欠乏群 53.2%と不足群 30.8%を合わせ全体の 84%に上り、ビタミンD充足群はわずか 16%と少ない状況であった。出生率で比較するとビタミンD欠乏群、不足群、充足群でそれぞれ 23.2%、27.0%、37.7%という結果だった。着床率や妊娠率に関しても同様にビタミンD充足群がそれぞれ最も高い成績（48.1%、41.6%）を示し、3群間で統計的に有意な差がみられた。また子宮内膜からはビタミンD受容体とその活性酵素が発見されている。これらのことから受精卵の着床にはビタミンDが重要な役割をしていると考えられる。さらに流産率も充足群が最も低い結果となり、血中ビタミンD濃度の状態と妊娠および出産の可能性との間に関連性がみられた。

■新生児におけるビタミンD欠乏の頻度と予後（日本の研究 2008 年）

ビタミンD欠乏症の指標として新生児の産科退院時の頭蓋ろう（頭蓋骨を指で押すとピンポン球のようにへこむ状態）に注目し検討した。京都市内の産婦人科病院で1年間に出生し正常と考えられた 1120 人を対象に頭蓋ろうの有無を生後 5-7 日目に検査したところ 22%の 246 人に頭蓋ろうが認められた。1年間を通しての発症率では明らかな季節変動があり、4-5 月出生児に最も頻度が高く、11 月出生児で最も低頻度だった。これはビタミンD欠乏による他の症状と同様に在胎中の日照時間による季節変動で、正常新生児の頭蓋ろうは、在胎中のビタミンD欠乏症に関連すると考えられる。

■可視総合光線療法

近年、当附属診療所を受診し、妊娠出産までの経過が確認できた 25 症例のうち、15 例 60%の方が「安産」と感じていました。本療法で血行状態が良好になり冷えが改善されたこと、さらに自律神経を整えリラックス効果により緊張をほぐし妊娠継続や出産に対する不安を和らげたことも安産に寄与したと考えられます。また本療法で体内のビタミンD産生を促すことは、妊娠しやすい身体づくり、妊婦や生まれてくる赤ちゃんの体調維持や出産後の健康管理に効果的です。妊婦のビタミンD欠乏は、胎児のビタミンD欠乏につながると考えられビタミンDは新生児の成長に関係するため不足しないように注意が必要です。

本療法は安定した妊娠継続と出産をサポートし母子ともに健康状態を維持するのに大変有意義な治療法となります。

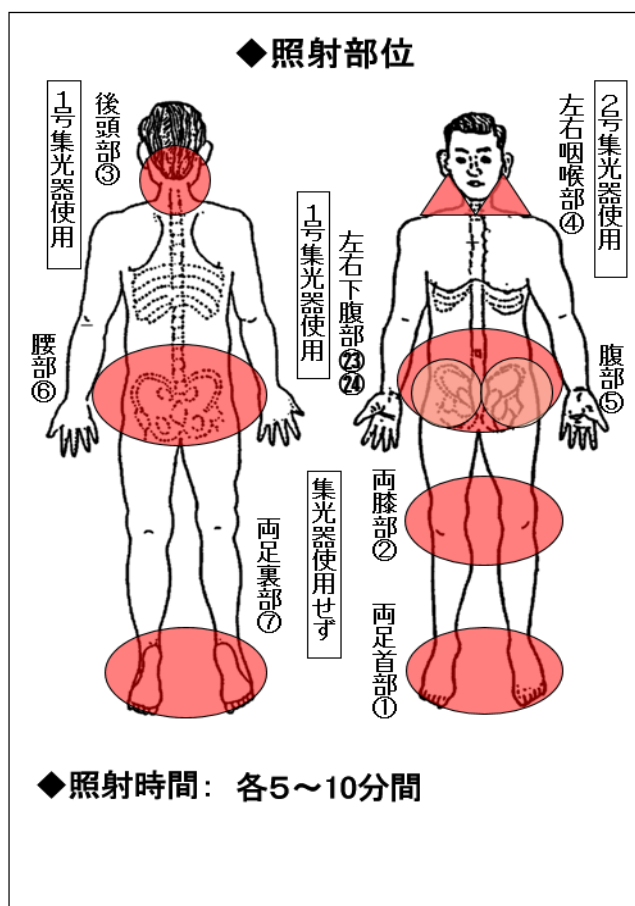
◆治療用カーボン

3001-5000番

3001-4008番 など

※腹部⑤のかわりに左右下腹部（1号集光器）の照射、または慣れて疲れなければ⑤を照射する場合もある

※腹部への照射に関して好感がない、不安感が強い場合は無理をせずに腹部の照射は中止



■治療例1 妊娠・つわり・逆子・出産

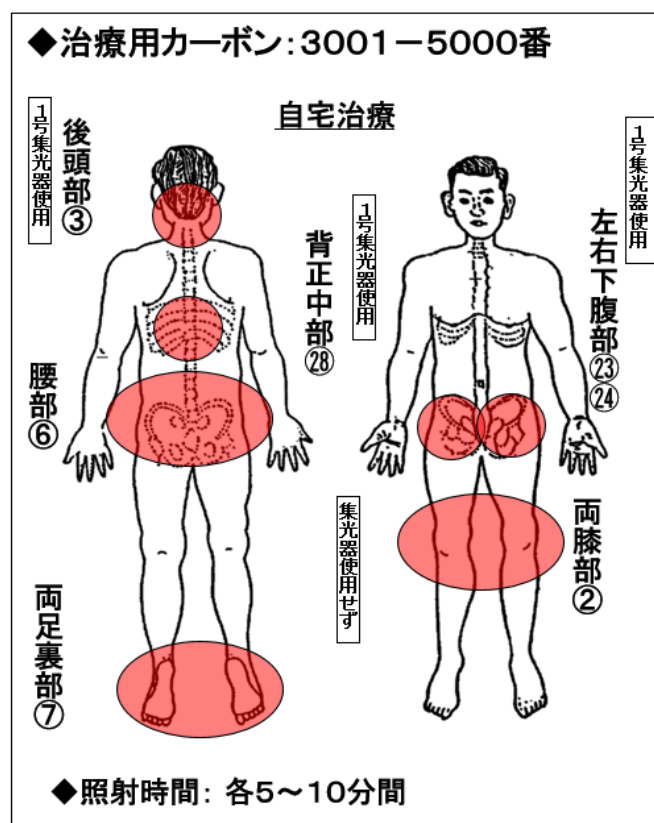
28歳 女性 主婦 155cm 50kg

◆症状の経過

25歳時に自然妊娠した。妊娠10週目からつわりが始まり、ひどいと1日中何も手につかなかった。友人の勧めで光線治療を試したところ翌日つわりが軽くなり驚いた。冷え症があり、肩こりや腰痛もあったので当附属診療所を受診。

◆治療の経過

自宅で毎日光線治療を行った。つわりはほとんど気にならなくなり、10日目には治まった。1カ月後、冷えが和らぎ、肩こりと腰痛は軽減していた。妊娠8カ月目の検診で逆子を指摘されたが、光線治療の継続で逆子は治った。予定日に無事出産を迎え、安産だった。現在子どもは2歳になり、子どもと一緒に両足裏部⑦をよく照射しており、母子ともに健康。



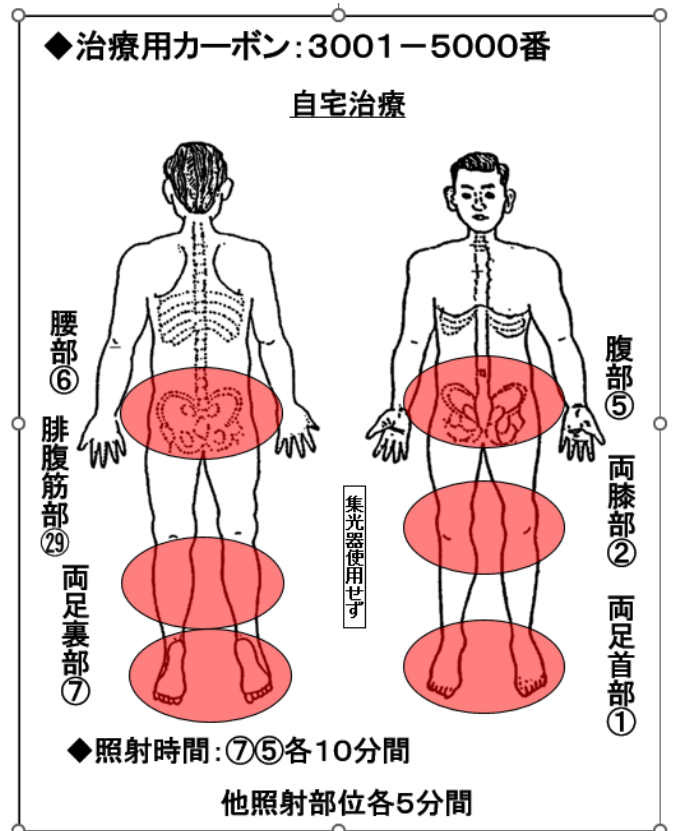
■治療例2 不妊症・妊娠・出産 36歳 女性 公務員 167cm 58kg

◆症状の経過

結婚9年目、33歳から不妊治療を開始。検査の結果、卵巣機能の低下、夫は精子の運動率低下を指摘された。タイミング療法、人工授精4回、体外受精1回を試みたが妊娠できなかった。義母が光線治療器を貸してくれたので、当附属診療所に治療法確認のため受診。

◆治療の経過

自宅で毎日治療を行ったところ、光線治療1カ月後の体外受精が成功し妊娠できた。妊娠中も光線治療を継続し経過は順調でその後、3190gの男児を無事出産。初産にも関わらず3回いきんだだけで出産でき「超安産」と感じた。元々冷え症だったが光線治療を開始してから冷えがほとんど気にならなくなった。現在子どもは1歳半になり大変元気。2人目の妊娠・出産に向け治療継続中。



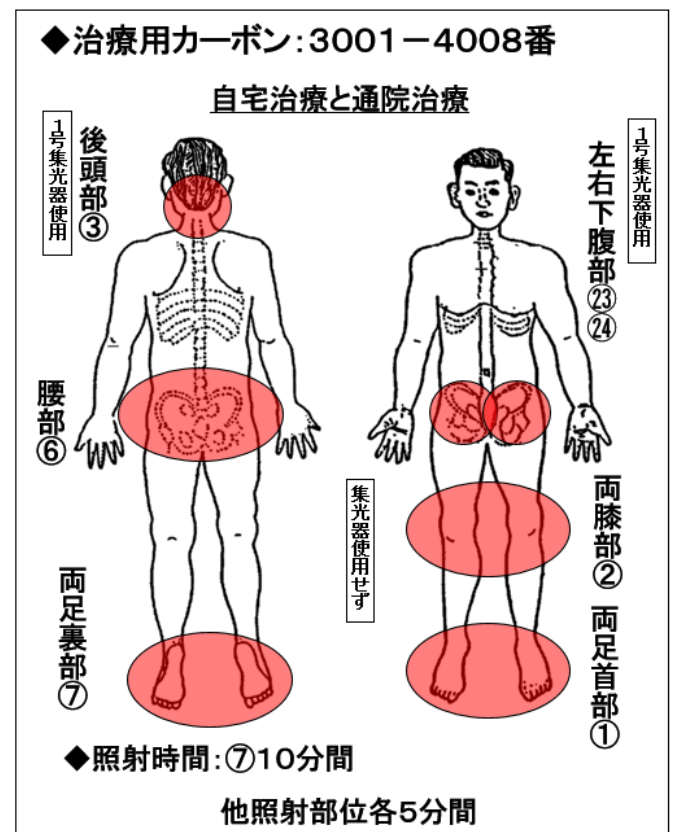
■治療例3 子宮筋腫・妊娠・出産 42歳 女性 会社員 165cm 58kg

◆症状の経過

両親が長年光線治療器を愛用していた影響で、幼い頃より光線治療を行っていた。30歳時に生理不順があり、1cmの子宮筋腫と診断。子宮筋腫の他に足首痛と頭痛があり照射方法確認のため当附属診療所を受診。

◆治療の経過

足首痛と頭痛は光線治療1カ月で改善、生理不順も治り光線治療は行わなくなった。その後結婚、不妊治療で体外受精を経て40歳時に妊娠したが、子宮筋腫が5cmに増大、腹部の周期的な圧迫痛が出た。鎮痛剤を服用したが、頭痛・眠気・動悸などの副作用があり中止した。不安で当所を再診し、光線治療を再開。光線治療で腹部の圧迫痛が和らぎ出産予定日の3カ月前まで仕事ができる。帝王切開で3,400gの男児を出産、母子ともに健康。



(当所での治療方法)

1回目

⑦①②⑳

各10分間



2回目

⑦②⑥㉓

各10分間



3回目

⑦⑥㉔③

各10分間

